

(別記)

草津市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、湖辺を中心とした穀倉地帯において集落営農や担い手を中心に麦、大豆の栽培が行われており、その大部分がブロックローテーションによる団地化により栽培されている。また、都市近郊という立地特性を活かした野菜の施設園芸なども盛んであり、草津市の花である「あおばな（青花）」をはじめ、「草津メロン」や「愛彩菜」、「琵琶湖元気アスパラ」、「琵琶湖からすま蓮根」といった、特産品づくりも進められており、「山田ねずみ大根」といった伝統野菜も作付されている。水田を活用した高収益作物の取組が広まりつつあり、野菜等の作付を積極的に促進している。

一方で、多くの大規模開発等により農地が減少していることや、農業者の高齢化や後継者不足により農家数が減少していることなどから、安定した農業経営が行いにくい状況にある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

生産目標に沿った作付面積を確保する。

(2) 非主食用米

需要に応じた生産数量を確保するとともに、水田のフル活用を図るため、麦、大豆の作付に適さない地域を中心に作付を促進する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

担い手育成の推進と担い手への農用地利用集積を行い、ブロックローテーションによる団地化等を推進し生産数量を確保する。また、二毛作大豆を推奨し、助成を行っていく。

(4) そば、なたね

需要に応じて取組等検討を進める。

(5) 高収益作物（野菜等）

施設園芸が盛んであり、「ほうれんそう」、「みずな」等の作付けや、「草津メロン」や「愛彩菜」、「山田ねずみ大根」、「琵琶湖元気アスパラ」、「琵琶湖からすま蓮根」といった本市独自の特産品の作付を促進する。

(6) 畑地化の推進

助成制度などの周知を積極的に行い、畑地化の促進を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	812.0	812.0	812.0
飼料用米	5.3	5.6	6.3
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS 用稲	0	0	0
加工用米	20.6	22.0	24.7
備蓄米	0	0	0
麦	172.7	178.4	189.9
大豆	171.3	177.0	188.4
飼料作物	0	0	0
そば	0.3	0.3	0.3
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	69.4	73.8	82.8
地域特産物	5.4	5.7	6.4
野菜・雑穀類・花卉	64.0	68.2	76.8

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				現状値	目標値
1	地域特産物(基幹)	地域特産物推進助成(基幹)	地域特産物作付面積	(29年度) 5.4ha	(32年度) 6.4ha
2	野菜・雑穀類・花卉(基幹)	野菜・雑穀類・花卉助成(基幹)	野菜・雑穀類・花卉(基幹)作付面積	(29年度) 60.4ha	(32年度) 72.5ha
3	野菜・雑穀類・花卉(二毛作)	野菜・雑穀類・花卉助成(二毛作)	野菜・雑穀類・花卉(二毛作)作付面積	(29年度) 3.6ha	(32年度) 4.3ha
4	水田活用米穀(非主食用米)	水田活用米穀助成	水田活用米穀(非主食用米)作付面積	(29年度) 25.9ha	(32年度) 31.0ha
5	大豆(二毛作)	担い手大豆助成	大豆(二毛作)作付面積	(29年度) 161.3ha	(32年度) 177.4ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり